

しあわせの村 野鳥物語



冬季も観察に良い季節

落葉した冬季は春のように樹の葉に遮られることなく野鳥の姿をとらえやすく観察に適したシーズンです。北方からの美しい使者—オシドリ、ジョウビタキ、ベニマシコ、マヒワ、シメなどが容易に観察出来ます。今年はやや暖かい日が多く野鳥たちが渡って来る途中に餌が残っているためか（推測）、全般的に遅れ、「しあわせの村」へも飛来が遅れていますが、やがて寒さが厳しくなると冬鳥も増えて来ると思われます。

野鳥たちにとり冬季は餌となる昆虫類も少なく厳しい冬を越すために、カキ、ピラカンサ、クロガネモチ、ムラサキシキブ、マユミなどの樹の実を探して懸命に啄ばむ姿があちこちで見られます。今春巣立った野鳥のヒナたちの翌春への生存率は10%未満と言われ命を繋ぐのに、私達が身近にいても気にせず懸命に餌を探しています。近くで野鳥たちをじっくり観察出来るチャンスです。

そして何とか厳冬を越し2月も後半となり、時々

春の兆しが見え出すと、ウグイスやメジロやカラヒワなどの留鳥は春の子育てに備えてそれまでの集団的な行動から番（つがい）の行動に移ります。冬鳥たちは北の国への北帰行に備えて体力を蓄えるために活発に餌を漁るようになります。

「野鳥と自然観察会」では、今春、環境省の許可を得て専門家に巣箱のシジュウカラやヤマガラなどのヒナへ足環を装着しその生態を追跡する予定です。村内の駐車場周辺の巣箱を天井板が開閉出来る新巣箱約20箱を古い巣箱と交換しました。これはヒナや親鳥が余り驚かないように短時間でヒナへの足環装着を行うためです。これまで殆ど分からなかった巣立ち後のヒナの生態が少しでも分かればと今から楽しみ

にしております。

また、P2駐車場の巣箱の出入り口が、冬季に大きく噛み広げられる状態が3年間続いたので、入口をブリキ板で補強した新巣箱を増やして設置しました。イタチかアオゲラかモモンガか。何とか犯人探しに終止符を打たなければと考えています。【終わり】（写真④シメ⑤マヒワ＝堀池さん提供）

（野鳥と自然観察会 茅中英一・西区会）

環境奨励賞 3グループに表彰状

23年度神戸市環境功労賞・奨励賞の表彰式が10月20日、市産業振興センター（ハーバーランド）で行われ、奨励賞に輝いた野鳥と自然観察会（茅中英一代表）里山和楽会（道満俊徳代表）花山梅林会（塚本桂三代表）の3グループが出席。神戸市長から「環境保全に多大な貢献をされました」と祝辞があり、表彰状と記念品を受け取りました。

花山梅林会の徳原尚世さんは「よくぞここまでやりとげたものと、感慨ひとしお。神戸市長のゴミを減らそうとのお話や講演会の3Rや省エネのお話の割には、副賞にいただいた記念品（過剰包装、使途に困る置物）に首をかしげながら、重いのを提げて帰りました」と感想の弁。茅中さんは「仲間とともに喜びを分かち合い、しあわせの村に野鳥を増やし、森を守り広げたい。村を訪れる人々に癒しの場を提供できれば」と活動の意欲を語り、道満さんは「5年間の里山活動が認められてうれしい。今、地元の小学校から環境教育支援を頼まれ、

3年生に樹木の年輪の見方を教えたり、カブトムシの生態観察を一緒にやったりしている」と喜んでいました。

子ども応援フェスタ

第41回子ども未来応援フェスタが11月29・30日、三宮・勤労会館で開かれ、バザー会場では衣料・雑貨など79万円の売り上げがありました。知的障害者施設の資金に使われます。同フェスタには毎年グループわが協力。今回も延べ137人が8日間、ボランティアとして梱包・運搬・販売などを手伝いました。（福祉部会）

コーロKSCの演奏会へどうぞ

混声合唱団コーロKSCは2月25日（土）、に神戸文化ホール（中）で守屋幸子さん（前指揮者）の追悼演奏会を開催します。守屋さんの指導を受けたコーロ始め、親和中・高コーラス部など6グループが出演の予定。また、4月15日（日）には第7回定期演奏会を神戸文化ホール（大）で開催します。KSCのみなさんのご来場を歓迎します。問い合わせは、同合唱団・寄藤忠彦（電話743-4452）まで。